

第4回伊丹市行財政改革推進懇話会（10月18日）に関する意見、提案について

平成22年10月28日

懇話会委員名： A 委員

前回会議お疲れ様でした。

遅くなりましたが感想だけメールさせていただきます。

取組項目調査のリストでいただき、とてもたくさんの量にびっくりしました。大変だったと思います。ありがとうございます。

補助や制度の見直しを検討する項目がいくつかありましたが、制度をなくしたり削減するだけではなくこの制度がなくなる代わりに、こんな制度がありますよと切り替えができたり、類似した制度があれば統合したり、制度を削減する代わりに充実した制度を作るなどの見直しをして、市民にあれもこれもなくなったなぁと思われぬような改定の仕方ができたらなと思いました。

そして市民にとっても行政側にとっても負のない方法を取れたらいいです。

見直しを掛けていくにあたって、波多江委員の意見にあったように、伊丹にしかないものは無くしていくのではなく、もっとアピールして活用していけたら一番よいと思います。施設等は市民だけでなく、市外の方にも活用してもらえそうなPRをして、活性させていけるといいです。それによって市外から伊丹に足を運んでもらえれば、よりよい効果が得られるかとも思います。

前回の検討項目で挙げていただいた伊丹の花火大会に関してですが、このような議題にあがっている事にびっくりしました。あるのがあたりまえという感覚で、そこにかかる費用や予算に関して考えた事がなかったからです。費用を聞いてびっくりもしました。でも小さい頃から楽しみにしていた祭りですので、できたら存続してもらいたいなと思いました。大きなイベントでは（知っている所だけですが）ルミナリエや淀川の花火大会も存続の為に協力金募金をお願いするのを見たことがあります。

来場者の方に募ってみたり、事前に駅などに基金箱を置いてみるなど、皆の意識を高めたり、来場者のモラルの向上を呼びかけ、整備費の削減をする方法を考えたりする事で、少し費用を削減して運営していけないでしょうか。

検討されている事項に宮ノ前祭りなどが上がっていましたが、祭りを花火大会の日に合わせてみたり、何かイベントや祭りを統合してみたりして、規模を縮小するばかりではなく、新たな形にして、今まで作り上げてきた文化は何らかの形で残せていけたらいいなと思います。そのために有か無か縮小かの選択だけでなく、できるだけ水準を保てるように運営方法を考えていってほしいです。

長寿のお祝いのお話なども挙がりましたが、私達が何十年後かにその世代になった時にも、よき伝統として楽しみにしていけるように工夫をして続けていってほしいです。あきらかに無駄だなと思うものを省き、必要だと思われる事には他の部分で削減できた分で補い、豊かな暮らしに還元してもらいたいなと思います。現場に携わっている人の声を聞きながら、よりよい運営方法を取ってほしいなと思いました。